

2024年2月26日

2023年度 第2回美容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2024年2月26日(月) 15:00-16:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 浦和校舎 地下1階 多目的室
3. 出席者 8名

	氏名	所属
1	間山 弘子	一般社団法人 埼玉県美容技術協会 指導講師
2	古川 聡	埼玉県美容業生活衛生同業組合 浦和支部 支部長
3	秋山 幸子	一般社団法人 埼玉県美容技術協会
4	長島 光世	埼玉県美容業生活衛生同業組合 戸田支部 支部長
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
7	吉野 貴子	埼玉県理容美容専門学校 美容科主任
8	佐々木 裕輔	埼玉県理容美容専門学校 美容科主任

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)

参加へのお礼とともに、教育課程について忌憚のない意見を求める。

5. 2023年度第1回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)

(1) 教育課程編成委員会の位置づけは職業実践専門課程・必須条件としての組織となる。

現在、文部科学省で2040年計画という20年かけて教育を変えていくというグランドデザインがある。その中で大きく言われているのが「CとLの世界」である。CはCenterを意味し、東京や中央部については、より国際的な人材育成に励むという方針である。LはLocalを意味し、東京や中央部以外の地域では地元で育った人材を育成し、しっかりと地元を維持するという方針である。

本校はLocalに位置するため、地元で貢献できるような学生を育成し、教育と社会の現場がかけ離れたものにならないようにという目的でこの会が設定されている。以上の内容は透明化が必要となっている。そのため、本会議の議事録はホームページ等で情報開示されることをご了承いただきたい。

(異議なし)

(2) 尚、開催期間は原則、前期1回目・後期2回目の年2回となるため、2023年度は今回が最終回となる。

6. 前回 2023 年度前期に意見・提案のあった点を、2023 年度後期において修正あるいは取り入れて実施できているかに関する報告

(1) 2023 年度の美容科授業報告

1 挨拶強化についての報告

<2 年生>

佐々木 /2 年生はすぐに就職が控えているということで授業中や、それ以外でもしっかりと挨拶ができるよう教員間で話し合い、客に対して気持ちの良い挨拶をするように伝えた。

階段や踊り場でお客様を優先できていない学生もいたので指導を行った。

<1 年生>

吉野 /後期より始まったサロンワークの授業にて、お辞儀の角度や挨拶する際の正しい言葉がけなどの基礎知識を、プリントや穴埋めシートを用いて勉強した。9 月に実施した実務実習にて、挨拶や笑顔の必要性を学んだことにより、後期は前期より意識して行うことができていた。

2 笑顔についての報告

<2 年生>

佐々木 /サロンワークの授業にて、鏡の前で笑顔をつくることを取り入れた。

自然な笑顔を常に出せるように、笑顔がないときにお客様がどのように感じるのかということ、デモンストレーションやアイモデルで学生に伝えた。マスクをしているので実感が無い部分もあったが、笑顔の指導を取り入れたことにより、学生に自然な笑顔が増えたように思う。

3 「まずは体験」させることについての報告

<2 年生>

佐々木 /国家試験に近づくと思った内容の授業になるので、その前にワインディングやカットを自由に取り組ませる授業を設けた。

自由にやることで、学生が自分で考えて取り組むということに繋がったので今後も国家試験課題以外のことも積極的に体験させていきたい。

<1 年生>

吉野 /例年は 1 年生修了後に実施していた実務実習を今年度は 9 月に実施した。実習後に行った 2 者面談でも「行ってよかった」という意見が多かった。学生は、立ち振る舞いや言葉がけを実体験で学び、基本の動きの必要性を知ることができた。サロンワークなどの授業の際も、ただ学ぶのではなく、必要だから学ぶという姿勢に変わっていった。

また、1年生は11月にアリミノのヘアショーの見学に行き、他校の学生が作品をつくる姿を見ることができた。それによってその後に行われた感謝祭や、これから行われる校内競技会においても、サロンスタイルではなくヘアショースタイルの作品をデッサン画で描くことができていた。
それをいかに作品に反映させるのかが今の課題である。

4 交換授業実施についての報告

<2年生>

佐々木 /1年生と連携を取り、国家試験内容とシャンプーの交換授業を行った。
シャンプーの授業では2年生が主体となって、やり方や注意点などを1年生へ指導した。1年生はもちろん、教えることで2年生も勉強になったと思う。
また、交換授業をきっかけに先輩後輩間での仲が形成された。

<1年生>

吉野 /シャンプーと国家試験課題である実技の交換授業を実施した。
2年生が自分では気が付かないような細かい点や、自身が苦勞した点などを1年生に教え、アドバイスをしてくれた。それによって1年生も疑問点を自分から質問することができていた。
交換授業を行ったことにより、その後に行われた感謝祭でも1年生と2年生がコミュニケーションをとることができ、「2年生がいることで安心して接客することができた」という1年生が多くいた。

5 気配り・心配りの指導報告

<2年生>

佐々木 /サロン室を使用し、お客様の視点になった時にどのようなことを感じるのか、アイモデルで体験するという授業を行った。
雑誌の渡し方や、何気ない足音など、細かいところまで色々なシチュエーションを用いて体験し、意見交換をするディスカッションを行った。
学生にとっても新たな気づきがあったのではないかと思う。

<1年生>

吉野 /1年生は現状では至らない点が多くある。しかし、実務実習にて気配り・心配りの必要性を学び、理解しているので、どう実践していくのかというところが今後の課題である。

6 名もなきサロンワーク指導の報告

<2年生>

佐々木 /2年生はすぐに仕事に就く立場なので、清掃と、気配り・心配りについて

サロンワークの授業で指導を行った。

清掃に関しては、学校でやる清掃とは違い、お客様を常に意識して行うよう伝えた。心配り・心配りに関しては、学生たちとディスカッションをしながら、色々なケースに対してどう対応すればよいのかを考えた。

学生たちは、今まで気づいているようで気づいていなかった点を知ることができ、有意義な授業になったと思う。

<1年生>

吉野 /トイレ、流しといった公共の場を各クラス1箇所ずつ受け持ち、担任が付き添いながら排水溝や壁面などの清掃を徹底して行った。

今まであまり触れてこなかった箇所の掃除なども、見えるところだけでなく、中まで行うよう指導している。トイレ掃除をしてこなかった学生が多かったが、「こういうところも綺麗にするのだ」という気づきに繋がっている。

しかし、担任が声をかけるとやるが、自分からやる姿勢が見えないという点が今後の課題である。

7 メンタルの安定の指導についての報告

<2年生>

佐々木 /働く上で、お客様の前でメンタルを安定させる必要がある。色々なシチュエーションを事前に予測することによって、メンタルが安定するのではないかと考え、学生たちに対策をさせた。

また、普段の学校生活に不安を感じる生徒や、感情的になりやすい生徒には個人的に話を聞くなどして、色々な社会性を持って生活しなければならないということを担任から伝えた。

<1年生>

吉野 /1年生はまだ友達関係が不安定である。仲の良い友達が次の月には替わっているという学生が見られるクラスもある。友人が発した言葉で傷ついたという声も聞く。コミュニケーションをとることは良いことだが、言ってよいことと悪いことの判断ができていない部分があり、思ったことを何でも言うてしまうというのが1年生の現状である。それによって友人間でのトラブルが発生し、メンタルの乱れが見られる。

8 学生に寄り添う意識の指導（2者面談の報告）

吉野 /9月に実施した2者面談では、友人関係、今後進みたい道、実務実習の3点について面談を行った。その中でも友人関係の相談が1番多かった。

9 マナー指導の報告

<2年生>

佐々木 /美容師としてだけでなく、社会人として身に付けなければならないマナーがあると考え、授業内でマナー講師の平林先生の動画を見せた。
食事のマナーなどに関しても知らない学生が多かったため、動画を見せることによって、学生が恥をかかないように指導を行った。就職前に細かいマナーについて知ることができたことは学生にとって良かったと思う。

<1年生>

吉野 /挨拶、笑顔と同様に実務実習にて必要性は学んだが、いざ現場に入ると実践できないという学生が多い。

10 アクティブラーニング実施の報告

佐々木 /2年生は全てこちらからやり方を提示するのではなく、自分で考えてやってみるという授業を展開した。学生が自分で考えることによって新たな疑問点生まれ、積極的に質問をするという傾向が見られた。

11 カウンセリングコンテストの結果報告

<2年生>

佐々木 /サロン室を使用してアイモデルで行った。

学生はカウンセリングに関して全く分からない状態だったので、まずは動画で全体の流れを学び、カウンセリングシートを使ってお客様の髪質や状態を総合的に聞き出して実践的なカウンセリングができるように取り組んだ。
グループに分かれ、投票を行うコンテスト形式だったことによって、学生は緊張感を持ちながら取り組むことができ、お互いに刺激を受けたと思う。

(2) 2023年度の美容科年間報告

<2年生>

佐々木 /国家試験に向けて学生の授業態度や技術に対する貪欲さなど、意識の変化が見られた。欠席しがちな生徒には、担任がサポートを行うことで、国家試験の実技は全員受験することができた。今後の学科に向けても、不安な生徒は担任と一緒に残って勉強して受験に備えている。
社会人に向けて意識が変わってきた半年だったように思う。

<1年生>

吉野 /前期の教育課程編成委員会の際に、欠席数の多い生徒がいるという話をさせていただいたが、現在は落ち着いている。一方で、傷つきやすく、気にし

がちな学生が多いことでトラブルになっている部分があるので、早期に気づいてケアしていきたい。

今年の1年生はメンタルの弱い学生が多かったように思う。

千住 /現在の1年生の在籍状況を伺いたい。

吉野 /現在1年生は102名在籍である。

入学時は114名だったので、年間で12名退学している状況である。

9月に報告した在籍数からは3名減っている。この中には休学者がそのまま退学になったという事例も含まれている。また、9月に復学した学生が1名いる。後期で退学した3名の理由については、美容に興味がなくなり退学した学生が2名、学費が払えなくなり除籍処分となった学生が1名である。

(3) 質疑応答

千住 /2年生で不安な点や質問したい点があれば伺いたい。

佐々木 /国試、就職を控えている中でモチベーションが上がらず、遅刻欠席が多い生徒が一定数いた。「それでは社会人としてはやっていけない」と伝えたが、伝わりきらないところがあった。どうしたら改善できるのか教えていただきたい。

千住 /遅刻、欠席が多い学生の背景を詳しく聞きたい。

佐々木 /美容師になりたいかどうか曖昧な学生や、経済状況的な不安を感じ、国試に集中できないという学生がいた。

千住 /こういった背景を踏まえて、学校の楽しさを伝えるにはどうすればよいのかアドバイスをいただきたい。

長島 /1年生、2年生共に昔に比べて消極的な学生が増えているように感じる。

自分から進んで何かをやるという自主性が足りないので、自分で考えさせるような授業を展開したが、それを楽しさに繋げるのは難しいと思った。

しかし、最後の授業で自由に着付けをやらせてみたら、とても楽しそうに取り組んでいた。最後に楽しみを持って来ると良いのではないかと感じた。

また、協調性も大事だと思う。着付けは2人1組で行うが、数年前までは「この子とはやりたくない」と言いに来る学生がいた。しかし、この2年はそのような学生が1人もいない。「試験に向けて協力しましょう」と言うと、合わない子とも一生懸命取り組んでいた。最後の砦が「試験に向けて」というのは指導として悩むところではあるが、その一言で協調性を持って取り組むことができていたので良かったと思う。

古川 /美容に興味なくなったという学生に何に興味があるのかを聞き出して、全く関係のない話をしてあげることで気がまぎれるのではないか。話を深掘りして聞いていくことで美容に繋がる場所があると思う。

やる気がなくなってしまった学生や、欠席しがちな学生が、今何をモチベー

ションにしているのかを聞いてあげることで、学生の「先生が話を聞いてくれる」という学校に来る動機になると思う。

千住 /美容をやりたくて美容学校に入学したが、カットで髪を触りたくないからマツエクをやりたいという学生が増えている。美容関連の職に就かせることで歯止めを聞かせている状況であるということも知っていただければと思う。

2年生の改善点をまとめると、目標設定をすることによって仲の良さが関係なくなるという意見と、先生が1人1人に寄り添ってヒアリングをすることによって、学校が楽しくなるのではないかという意見があげられた。

続いて2年生とは状況が違い、国家試験まで時間にまだ余裕があり、緊張感が不足している1年生に関して、アドバイスを頂きたい点などを伺いたい。

吉野 /特定の人とは話せるが、大勢いる中でのコミュニケーションが取りにくいという学生がいる。2者面談の際に「欠席したときにその日の授業内容を誰に聞けるか」というアンケートを実施したら、35人ほどいるクラスの中で、5人しか聞く人がいないというような学生がほとんどだということが分かった。

授業以外の場面で友達関係を築くのが難しいという点がトラブルに繋がっている状況である。個人面談以外に学生に寄り添う方法を教えていただきたい。

千住 /学校とはポジションの違い、会社や、美容室などの社会的な視点から、オープンマインドについてのアドバイスを教えていただきたい。

秋山 /学校には出来る子と出来ない子がいる。人に教えることが上手な子もいる。

その中で、上に立てるような子たちを教員側が誘導するという方法をとるのはどうか。仲が良い子同士で組ませるのではなく、誰とでもうまく動くことが出来そうだとする子をピックアップし、誘導することで調整するのも良いのではないかと思う。先生には聞けないが、友達には聞けることもあると思う。

出来ない子の方が多いとは思いますが、少し教えるだけで出来る子もいる。

逆に、出来る子でも練習をしなければ出来なくなるということもある。

その点を踏まえて、誘導してあげる環境をつくと良いのではないかと思う。

千住 /その関係や環境をつくるにはどうしたらいいのか伺いたい。

秋山 /1人では何も出来ないのも、誰かがやってあげることによって周りもついてくるようになると思う。精神状況は1人1人違うので、生徒から報告を受けるだけでなく、教員側で把握するというのも大切である。

教員は1人ではないので、自分だけでは難しいというときはみんなで話し合うことも必要だと思う。教員にも良いところ、悪いところがあるので、補い合うと良いと思う。そういった教員のコミュニケーションを学生に見せることで、学生に影響を与えるのではないか。

間山 /佐々木先生と吉野先生に美容師としていいなと思うところや素晴らしいと感じるところを教えていただきたい。

佐々木 /お客様に「ありがとう」と感謝されたときや、自分の思った通りにスタイルが決まったときにいいなと感じる。

吉野 /佐々木先生と同様に、自分の技術に対して「ありがとう」と言っていたき、それがお金に繋がるというところ。また、何歳になっても働けるというところ。男性、女性関係なくお客様に接する多様な仕事だということである。

間山 /やはり、美容師としての根っこを育てるのが学校だと思う。教員は学生に美容の技術を教えるだけでなく、人として育てていかなければいけないという中で、細かい配慮が必要とされて大変だと思う。学生の中に怒って伸びる子と、怒ってはいけない子がいるように、個々の性格を見極めなければいけない。

成績の悪い子には手を差し伸べて、美容の世界に夢を見せてあげて、目先の国家試験や人間関係云々ではなく、自分の人生を自分の力で切り拓くことができる世界だということを根気良く伝えてほしい。

それには自分で考えられる力、想像力、コミュニケーション能力が必要となる。手をかけなければいけない生徒がどこにいるのかを観察し、自分の力で拓ける美容の世界があるということを伝えていくことができれば、学生は社会人としてきちんと世の中に向き合うことができると思う。

教員側は大変だと思うが、一生懸命学生を導いてほしい。

千住 /その他に聞きたいことなどあったら伺いたい。

佐々木 /時間に対してルーズな学生が多い。美容師に就く上で致命的である。改善点などあれば教えていただきたい。

間山 /美容師だけでなく、社会人として大事なことである。

それが社会人としてどれだけ大事なことかということをお教えるのではなく、自分で気づくまでコミュニケーションを仕掛けていくべきである。

学生が理屈で理解するだけでなく、自分で考え、行動に移せるようになるまで諦めずに指導するしかないのではないか。

秋山 /そういった生徒にはどう接しているのか。

佐々木 /社会人になった際に、お客様が待っているのにあなたがないという状況と変わらないという例え話をしている。

秋山 /学生が反対の立場になった時にどうするのかという問いかけが必要である。

来ない理由に対して、それで良いのかということをお教えるべきではない。

社会人になって働く上で、遅刻をしてお金がもらえるわけがない。

そういったことまで把握させて、本人に自覚させなければいけないと思う。

間山 /昔、一緒に務めている人に良く遅刻をする人がいた。

ある日、遅刻してきたその人に対して「待っていたの」と言ったら、その日以降遅刻することが無くなった。その人からは「そんなに私を待っていてくれたの」と言われた。

生徒に対してもそのような経験をさせてあげることで、自分で何かを考え、感じる機会になるのではないかと思う。

今後ますますそのような生徒が増えていって教員は大変だと思うが、この仕事の素晴らしさを感じる思いがあれば伝えていけると思う。

古川 /今の学生は認められている、求められているというような自己肯定感を大事にしているように感じる。頭ごなしに叱るのではなく、寄り添ってあげることで変わると思う。認めてあげることで、少しは前向きになれるのではないか。

長島 /成績が優秀な子と、そうでない子で手の掛け方が違う。

出来ない子の中にもリーダー的存在の子はいるので、そのような子をもっと伸ばしてあげるのが良いと思う。

千住 /以上の話をまとめると、2年生は、学生1人1人に向き合ってクラスを把握する、教員側からコミュニケーションをとるようにする、挨拶は地道に出来るまで伝えていきながら目標設定をしてあげるといった意見があげられた。

1年生は、オープンマインドに関する意見があげられた。

7. 2024年度に向けての意見・アドバイス

古川 /メンタルの弱い学生が増えて大変だと思うが、寄り添ってあげてほしい。

秋山 /1人1人見てあげて、状況に応じたことを指導することが大切である。

ダメなことを指摘したあとにきちんと褒めることを見つけて、その子を伸ばす方向に持っていくと良いと思う。

長島 /生徒に寄り添うことを大事にしていきたい。

出来る子も出来ない子も同じ土俵で考えていってほしい。

間山 /今の子どもたちは愛情不足で育ってきているのか、幼く感じる。

「教えよう」「引っ張ろう」ではなく、褒めて伸ばすことで、学生は「認めてもらえたから頑張ろう」という気持ちになると思う。

それが先生たちの成長にも繋がるのではないかと思うので頑張ってもらいたい。

千住 /今回頂いたアドバイスをもとに次年度も頑張っていきたいと思う。

8. その他

連絡事項 2024年度教育課程編成委員会は年2回を予定

1回目 9月10日(火) または 9月17日(火)

2回目 2月24日(月) または 2月25日(火)

9. 閉会

校長 /先生方から頂いた多くのご指摘を参考に、学生たちが身をもって体感できるような形で指導していけたらと思う。